

埼玉育ちのグローバル人

百聞不如一見～私の個人的日中交流～

第3回 「対話を通じた相互理解に向けて」

平成23年度「埼玉発世界行き」奨学生 大内 洸太



埼玉県マスコット「コバトン」



●「なぜ？」を大学で

高校時代の中国留学で、中国の色々な人たちと交流した結果、「なんだ、日本と中国はもっと仲良くなれるじゃん！」と明るい希望を持って日本に帰ってきたわけですが、帰国してからテレビや新聞で伝えられるのは、どうもギクシャクした日中関係の現状。このギャップって何なんだろう、そんな素朴な疑問を抱きました。そこで、大学入試では国際政治が学べる学科を志望し、1年間の浪人を経て、早稲田大学政経学部の国際政治経済学科に入学しました。(やはり日本の高校を1年間空けることの学業的ハンデは小さくありません。推薦やA0入試等で留学経験を評価する大学もありますが、高校留学を考えている読者の方は帰国後の進路についても考慮に入れておくと良いと思います。)

●20歳、2度目の中国留学

「え、また中国に留学？」周りからはそう言われました。理由は単純で、中国は日中関係をどう見ているのかを知りたいから。ちょうど早稲田大学には北京大学国際関係学院との1年間のダブルディグリー(DD)プログラムがありました。DDプログラムとは、留学中に所定の単位数を満たせば早稲田大学卒業時に留学先大学の学位も授与されるというものです。この時に「埼玉発世界行き」奨学金のお世話になりました。



北京大学西門にて。中国全土の学生がこの門をくぐるべく激しい受験戦争を繰り広げます。

現地では中国人学生と共に国際政治概論、中国政治概論、中国対外関係史、日本政治外交といった授業を受けました。課題報告や共同論文執筆等で、日中関係のみならず、国際関係をめぐる様々な課題に対し、中国人学生との意見交換をしながら一つの成果物にまとめていくような機会も多々ありました。

北京大生と話して思うのは、やはり中国全土から集まったエリートだけあり、非常に頭の切れる方が多いということ(ゆえに彼らと議論する際は常に頭フル回転でした...)。そして、話したクラスメートの多くが、日中関係に対しては現実主義かつ未来志向な考えを持っていることが印象的でした(先生方も同様のスタンスで授業をされてい

ました)。そんな中で「日中両国民の立ち位置や理想って言われるほど離れてないのかも」と思い、まずは「対話」を通じた相互不信の払拭及び共感の形成が重要性を改めて認識するに至りました。



北京大学のクラスメートと共同執筆した論文の審査。厳しいコメントもたくさん頂きました。

●友好にとどまらない相互理解のために

帰国後は日中学生の学生交流事業や、日中有識者によるフォーラムの運営ボランティア等を通し、日中間の対話に携わってきました。

いわゆる日中「友好」というより、共通課題の解決のための「相互理解」を、腹を割った本音の対話を通して深めていくことが今後より重要になっていくのではないかと思います。ただ、よく分からない相手と腹を割って本音で話せと言われてもそんなの無理ですよ。だから、まずは日本と中国の人々が出会うこと、そして交流を深め、仲良くなることからスタートしていくのだと思います。



学生時代に運営のお手伝いをした日中有識者によ

るフォーラムの会場にて（閉会后）。

●おわりに

3回にわたり、拙文お読み頂きましてありがとうございました。文章能力に乏しく読み辛いところが多々あったかもしれませんが、皆さん、特にこれからを担う学生の方々に、国際交流の面白さが伝われば、これ以上嬉しいことはありません。私は今、国際交流系の機関で日中の青少年・市民交流に携わる仕事をしています。これまでの経験を活かし、日中のみならず、日本と世界の人々が出会い、交流する場の創出にこれからも尽力していきたいと思っています。